

試験研究（事後）評価整理表

試験研究機関名 衛生研究所

所 管 課 業務課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究期間・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				初期	終期			
1	2-3- ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	結核・感染症対策	福島県内の結核菌の分子疫学調査研究	結核菌のRFLP法による遺伝子解析を実施し、県内の結核の感染経路を解明すること(分子疫学的調査)により結核対策に資する。	県内医療機関等の協力を得て結核菌株の提供を受け、RFLP分析を実施し、コンピューターシステムで遺伝子パターンと比較解析をする。	17	19	A	コンピューターシステムによるデータベースの遺伝子パターンの比較解析は、目視による結核菌RFLP分析よりさらに多くの情報が得られることがわかった。	結核菌株の遺伝子情報を解明することで感染経路の確定に役立てることができた。
2	2-3- 生活衛生等の確保(食品等の安全性の確保)	食品等の安全性の確保	LC/MS(高速液体クロマトグラフ質量分析計)による健康食品中未承認医薬品成分の一元分析法の調査研究	LC/MSによる健康食品中の瘦身用成分・強壯用成分のうち問題となっている未承認医薬品成分の一元分析法を検討し、県民の健康被害の未然防止を図る。	業務課が実施している健康食品検査事業の検体を用い、瘦身用成分・強壯用成分別にLC/MSにより一元分析法を検討する。	18	19	A	19年度より医薬品等の監視指導、苦情対策に一元分析法を導入し、検査の迅速化を図った。	LC-MSによる健康食品中の未承認医薬品成分の一元分析に取り組み、分析法を確立するとともに、薬事法に基づく監視指導事業の検査に活用するなど、本研究の成果は目的を十分に達成したといえる。
3	2-3- 生活用水の確保と上水道の整備	安全な飲料水の供給	県内主要河川のクリプトスポリジウム汚染の実態について	環境水中のクリプトスポリジウム、ジアルジアの(オー)シスト(休止状態の原虫)の同定に、形態学的観察の他に遺伝子検査を取り入れることで、その精度を向上させる。	コントロール(オー)シストを定法により処理し、形態的に確認した後、DNAを抽出し公表されているプライマーを用いて標的領域を増幅する方法を確立させ、県内河川の実態調査を実施する。	18	19	B	クリプトスポリジウム、ジアルジアの検査法を確立したことにより、汚染実態調査を可能にした。	環境水中のクリプトスポリジウム、ジアルジアの検査法を確立し、河川の汚染実態調査を可能にした点で、本研究の成果は目的を概ね達成したと判断される。